



## 2022年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年7月6日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 近藤 和行  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO執行役員 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900  
 四半期報告書提出予定日 2022年7月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年8月期第3四半期の連結業績(2021年9月1日~2022年5月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第3四半期	9,076	3.4	1,929	△2.8	1,929	△6.2	1,302	△7.4
2021年8月期第3四半期	8,780	3.0	1,985	18.7	2,056	22.6	1,406	22.3

(注) 包括利益 2022年8月期第3四半期 1,302百万円(△7.4%) 2021年8月期第3四半期 1,406百万円(22.3%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2022年8月期第3四半期	73	17	73	09
2021年8月期第3四半期	78	99	78	94

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第3四半期	23,401		21,272		90.8	
2021年8月期	22,972		20,316		88.4	

(参考) 自己資本 2022年8月期第3四半期 21,247百万円 2021年8月期 20,301百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2021年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00	
2022年8月期	—	0.00	—			
2022年8月期(予想)				20.00	20.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	12,200	1.6	1,810	△32.2	1,810	△34.0	1,250	△33.0	70	21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年8月期3Q	17,804,032株	2021年8月期	17,804,032株
2022年8月期3Q	137株	2021年8月期	137株
2022年8月期3Q	17,803,895株	2021年8月期3Q	17,803,895株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予測などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「新型コロナウイルス」といいます。）の感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって持ち直しの動きが見られる状況となりました。一方、中国における感染再拡大の影響やウクライナ情勢の長期化等が懸念される中で、金融資本市場の変動等の影響などを注視する必要があります。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の77.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しております。衛星放送メディア関連の広告費は、1,209億円（前年比103.1%）となり、そのうち70%強は当社を含む無料BSデジタル放送事業が占めております。（「2021年 日本の広告費」(株)電通調べ）

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、自社制作コンテンツの強化、良質コンテンツへの出資、配信ビジネス等の新規事業開発に取り組むとともに、効果的な広告宣伝、広報施策を実施いたしました。

#### [レギュラー番組]

報道番組では、永田町にまつわる秘話やエピソードを独自の視点で議論するトークエンターテインメント番組『報道ライブ インサイドOUT 鈴木哲夫の永田町ショートタイム』の放送を開始いたしました。

『大人のバイク時間 MOTORISE』は、新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった「東京モーターサイクルショー」に参加。「MOTORISEトークステージ」を実施し、ライブ配信も行いました。

歴史教養番組『偉人・素顔の履歴書』では、源頼朝、空海など話題の偉人や人気の偉人を幅広く取り上げお届けし、放送後のアフタートークをYouTube限定コンテンツとして配信中の『偉人・こぼれ囁』とともに、多くの視聴者の方々にご覧いただきました。

『八代亜紀いい歌いい話』は、吉幾三さん、伍代夏子さんなど豪華ゲストを多数お迎えし、魅力的な特集・コーナーとともにお届けいたしました。

そのほか、『私たち鉄印帳はじめます。』、『京都画報』、『京都浪漫 悠久の物語』、『太田和彦のふらり旅新・居酒屋百選』、『マイナビ Be a booster! B.LEAGUE ウィークリーハイライト』、『諸見里しのぶ 実践 ゴルフテク!』、『BSイレブン競馬中継』、『うまナビ! イレブン』等も引き続き、内容をより一層充実させて放送いたしました。

更に、『ディスカバリー傑作選』では、『名車再生』『大解剖! 世界歴史建築ミステリー』『ジャーダのホームクッキング』等、様々なジャンルのコンテンツを厳選して放送しております。

ドラマジャンルでは、製作委員会参加作品で、ねこを中心とした人間模様を描く癒しの猫エンターテインメント『ねこ物件』、全国各地に“ボタバラ旋風”を巻き起こした国内ドラマ『牡丹と薔薇』、日本初放送の台湾ドラマ『ロマンスは連載中』、BS初放送の韓国ドラマ『私がいちばん綺麗だった時』、中国時代劇『解憂（かいゆう）～西域に嫁いだ姫君～』、ヨーロッパミステリー『刑事マードックの捜査ファイル』等、日本・アジア・欧州等の多彩なコンテンツを放送しております。

#### [特別番組]

今年新たに設立された女子ソフトボールリーグ「JD.LEAGUE」の開幕戦となった『ビックカメラ高崎ビーキューンvsトヨタレッドテリアーズ』の熱戦をZOZOマリンスタジアムから生中継いたしました。

7回目となる『京都夜桜生中継2022』では、「その名が知られる桜物語」と題し、ゲストに西田ひかるさん、バイオリニストの川合郁子さんを迎え、ライトアップされた京都市西京区にある十輪寺の「なりひら桜」をテレビ初放送でお届けいたしました。

また、毎年恒例の全国各地の桜の名所を紹介するミニ番組『桜前線2022 全国キャスターリレー! ～知っておきたい桜スポット～』は、過去最多の15放送局とコラボレーションを実現することができました。

### 【アニメ関連事業】

「ANIME+」枠では、製作委員会出資作品である『群青のファンファーレ』、『八十亀ちゃんかんさつにっき 4さつめ』、『ブラック★★ロックシューター DAWN FALL』、『魔法使い黎明期』、『このヒーラー、めんどくさい』をはじめ、毎クール約40タイトルのアニメ関連番組を放送しております。「アニメプラス」枠では『ガンダムシリーズ』、『境界戦機 第二部』、『キッズアニメ∞(むげんだい)』枠では『ミラキュラス レディバグ&シャノワール シーズン3』、『スーパーウィングス ミッションチーム』を放送。『モーレツ宇宙海賊』、『メイドインアビス』等の人気作品も再放送いたしました。

エンターテインメント情報番組『アニゲー☆イレブン!』、アニメソング番組『Anison Days』とともに、幅広い年齢層のアニメファンのニーズにお応えできるよう、様々な切り口でアニメ関連番組を放送いたしました。

また、3年ぶりにリアル開催となった世界最大規模のアニメイベント『AnimeJapan 2022』に今年も出展。GREENステージにて「ANIME+」Presentsと題して実施しました、出資作品『まちかどまぞく 2丁目』、映画『五分の花嫁』の出演声優によるトークイベントは大盛況となりました。

更に、ゴールデンウィーク期間中には、『とちてれ☆アニメフェスタ!』に協賛し、出資作品の『くノーツバキの胸の内』出演声優によるステージイベントを実施いたしました。

このほか、読み聞かせ朗読番組『今日のえほん』は、グループ会社である(株)理論社、(株)国土社の児童書を映像化し放送しており、BS11オンデマンド、公式YouTubeチャンネルでの配信も行っております。

### 【配信コンテンツ】

当期の重点施策である「配信ビジネス、新規事業開発と収益化」を目的とし、自社制作番組関連コンテンツのネット配信、オンラインイベントの実施を強化しております。

3月には『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』の初のオンラインイベント「全国の酒蔵応援! 居酒屋探訪家太田和彦さんとおうちで乾杯!」を開催。全国各地から多数の方々にご参加いただきました。

また初の試みとして、「報道ライブ インサイド OUT」の出演者が、未来のジャーナリストを育成する『報道ライブインサイドOUT Presents ジャーナリスト養成オンライン講座』(全6回)の第1回を開催し、質疑応答が活発に行われるなど、次回以降への期待が高まる講座となりました。

BS11公式YouTubeでは、(株)文化放送のインターネットラジオ「超!A&G+」とコラボレーションし、出資作品の人気アニメ『転生したらスライムだった件』出演声優によるラジオ『転生したらスライムだった件~転スラジオ~』、地方局とのコラボレーション特別番組『桜前線2022 全国キャスターリレー!』をはじめ、『偉人・素顔の履歴書』およびアフタートーク『偉人・こぼれ囁』、『京都画報』、『今日のえほん』等、番組を厳選し配信しております。

そのほか、自社制作番組『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』、『私たち鉄印帳はじめます。』、『大人のバイク時間 MOTORISE』、『諸見里しのぶ 実践 ゴルフテク!』等は、BS11公式YouTubeやGYAO!での広告付き見逃し配信に加え、Paravi、FOD、U-NEXTにて定額見放題での配信も実施することで、一つの番組を複数のプラットフォームで視聴できるようにし、コンテンツの拡充およびプラットフォームの拡大に努めました。当社独自の配信サイト「BS11オンデマンド」でも、引き続きレギュラー番組、特別番組について、放送後に無料見逃し配信を行い、今後も放送に加え、配信を通してより多くの視聴者に良質なコンテンツをお届けできるよう、努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,076,298千円(前年同期比3.4%増加)となりました。営業利益は1,929,450千円(前年同期比2.8%減少)、経常利益は1,929,306千円(前年同期比6.2%減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,302,640千円(前年同期比7.4%減少)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ 428,777千円増加し、23,401,683千円（前連結会計年度末比 1.9%増加）となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が 234,208千円、有形固定資産の減価償却が進み、建物及び構築物（純額）が 76,408千円、有形固定資産その他（純額）が 147,426千円とそれぞれ減少したものの、現金及び預金が 767,130千円、棚卸資産が124,155千円とそれぞれ増加したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ 527,438千円減少し、2,129,296千円（前連結会計年度末比 19.9%減少）となりました。主な要因は買掛金が 103,278千円増加したものの、未払法人税等が 458,718千円、流動負債のその他に含めて表示している未払金が 159,507千円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 956,215千円増加し、21,272,387千円（前連結会計年度末比 4.7%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当 356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,302,640千円の計上に伴い 946,562千円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月期の業績予想につきましては、2021年10月7日付の「2021年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,021,321	13,788,451
受取手形及び売掛金	2,065,994	1,831,786
棚卸資産	363,519	487,674
その他	69,312	93,641
流動資産合計	15,520,147	16,201,553
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,369,269	2,292,861
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	606,993	459,567
有形固定資産合計	7,011,019	6,787,185
無形固定資産	84,248	68,984
投資その他の資産	357,490	343,960
固定資産合計	7,452,758	7,200,130
資産合計	22,972,905	23,401,683
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	500,329	603,607
短期借入金	500,000	500,000
未払法人税等	634,721	176,002
返品調整引当金	60,585	—
その他	853,693	735,361
流動負債合計	2,549,329	2,014,972
固定負債		
退職給付に係る負債	89,109	96,028
その他	18,295	18,295
固定負債合計	107,404	114,323
負債合計	2,656,734	2,129,296

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,183,936
資本剰余金	3,517,726	3,517,726
利益剰余金	12,599,839	13,546,401
自己株式	△143	△143
株主資本合計	20,301,358	21,247,921
新株予約権	14,812	24,466
純資産合計	20,316,171	21,272,387
負債純資産合計	22,972,905	23,401,683

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)
売上高	8,780,234	9,076,298
売上原価	4,127,064	4,365,334
売上総利益	4,653,169	4,710,964
販売費及び一般管理費	2,667,673	2,781,514
営業利益	1,985,495	1,929,450
営業外収益		
受取利息	124	65
保険解約返戻金	69,152	68
その他	4,603	2,684
営業外収益合計	73,880	2,817
営業外費用		
支払利息	2,931	2,889
その他	62	71
営業外費用合計	2,993	2,961
経常利益	2,056,382	1,929,306
税金等調整前四半期純利益	2,056,382	1,929,306
法人税、住民税及び事業税	661,936	605,573
法人税等調整額	△11,842	21,092
法人税等合計	650,093	626,665
四半期純利益	1,406,288	1,302,640
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,406,288	1,302,640

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)
四半期純利益	1,406,288	1,302,640
四半期包括利益	1,406,288	1,302,640
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,406,288	1,302,640
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識基準に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。これにより、当社グループの書籍等の出版販売について、従来は、返品による損失見込額を返品調整引当金として計上しておりましたが、変動対価に関する定めに従って、返品されると見込まれる製品についての売上高および売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債を流動負債の「その他」および返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

当第3四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度における有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。